

第6回札幌恵庭自転車道線恵庭工区延伸ルート検討委員会【概要版】

【開催日時】平成22年11月25日（木）15：00～17：00

【開催場所】 恵庭市市民会館 2 階サークル研修室

【出席者】

〔委員〕 泉谷清、喜多昌幸、内田信一、川向康文、木内克昌、竹内栄、
丹伊田哲也、藤本治聖、掛水美枝子、永井晋二、久村隆一、平野哲雄
（欠席委員：鏡貢）

〔ﾌﾟﾛﾌﾞﾗｲﾅｰ〕 岸邦宏（北海道大学大学院工学研究院准教授）

〔オブザーバー〕 山本浩之(北海道空知総合振興局札幌建設管理部道路課舗装係長)
東谷和雄(北海道空知総合振興局札幌建設管理部千歳出張所長)
佐伯伸基(// 道路係長)
大坪順一(// 道路係主任)

事務局 寺崎博裕（企画振興部長）、黒牧智器（都市計画課長）、
大嶋克幸（同主査）

〔傍聴者〕2名

【會議概要】

1. 開 会 黒牧課長

2. 挨拶 寺崎部長

3. 議 事

(1) 提言書(案)について

4. その他

5. 閉 会

提言書（案）について 意見交換要旨

意見分類		意見要旨
整備イメージ	安全 対策	・道道江別恵庭線との交差点付近は、恵庭方面から走行すると下り坂で危険。 ・柏木川沿いでは、整備イメージ図のように見通しが良い場所ばかりではなく、道路交差部は2箇所あり、見通しが悪い。 ・危険と思う箇所は注意喚起の標識を設置するなど、自動車対策が必要である。 ・島松地区は風が強い地区のため、防風柵・防風林を設置してはどうか。 ・柵設置や看板などを検討し、提言書に盛り込んでどうか。 ・自転車のパンクの7割が段差から落ちた衝撃によるものである。 ・バリアフリー化をしてはどうか。 ⇒現在、駅周辺での市の基本構想に基づき、バリアフリー化を進めている。道路の設計を変えるのは困難な点が多いが、配慮していきたい。
	休憩所	・着替えができるような踏み台つきトイレなどを設置してはどうか。道の駅には設置されておらず、不便を感じる。荷物置場としても利用でき便利である。 ・汲み取り式から水洗、ウォシュレット付へと変化し、現在は多機能なトイレが求められている。
	ベンチ	・花や景色を見るための椅子設置（500メートル間隔程度）を行ってはどうか。 ・地元の人が作った創作物を設置することで、愛着が生まれ、更にまちづくり・みちづくりへの意欲が高まるのではないかな。 ・銅像のように、道に変化を与える創作物があるといい。 ・浜中町のモンキーパンチ氏（浜中町出身）による標識のように、出身者の創作物を置くことは大変良いと考える。 ・創作物はコストが高くなることが懸念される。
	サイン	・ルートの中でお薦めのビューポイントの標識を設けてはどうか。 ・ビューポイントはどんなところが考えられるか。 ⇒（事務局）市の計画の中で、跨線橋や道と川の駅付近の橋の上などをビューポイントとして指定している。 ・恵庭岳が眺められる島松体育館のグラウンドや漁川の河川敷は、ビューポイントとなるのではないかな。 ・自転車安全利用五則の恵庭版を作ったほうが良いと考える。
	食事 ・ 販売	・休憩所内に食事スペースや売店、あるいは飲み物、食べ物の自動販売機などを設置することは可能か。 ⇒（事務局）公共の敷地内での設置は難しい。 ・イベント時の出店の設置は可能か。 ⇒可能性はあるが、難しいと考える。 ・保健所の関係もあり、食べ物に関しては難しいのではないかな。

意見分類		意見要旨
利活用イメージ	既存施設	・新たな施設整備は管理コストが増大するため、既存施設の活用が有効である。 ・郷土資料館など既存の施設に導くような標識を設置してはどうか。無人の施設は、悪戯される恐れがあるため、有人の既存施設へ誘導する方が良いと考える。 ・近所の公園に不法駐車などが見られ、取締り・排除の姿勢が必要である。 ・提言書案にあるように多く存在する既存の施設の利用が大切であるという意見はこれまでも出ていた。
	イベント	・ジャガイモ掘りサイクリングや、ジンギスカンサイクリングなどを企画したイベントもある。農村地区をルートの一部としているのだから、このような行事を行うことも利用増進・活性化に効果的である。 ・広場などがあるといいと考える。 ・ライオンズクラブでも、道の駅を出発点としてサイクリングし、とうもろこしや豚汁を食べるイベントを行っている。 ・札幌などからファミリー参加を呼び込むことができるのではないかな。 ・非日常を求めて、都心から恵庭に訪れる人も多いのではないかな。 ・イベントも重要であるが、家族での利用など、少人数で日常的に使いやすいことも重要である。 ・体育協会では駅伝を行っているが、街中でレースに適した道が無いとため、距離が短く、周回コースとしている。道路横断はあるが、自転車道路が整備されれば、駅伝イベントのルートとしても利用できる。 ・適度なアップダウンがあるため、クロスカントリーの練習場としても恵庭は適していると言われ、景色も人気があることから、利用してはどうか。 ・環境を整備することで、イベントを行う可能性が広がる。

意見分類	意見要旨
その他	ストーリーづくり ・利用率の低さ、住民との接点の少なさが指摘され、事業仕分けで自転車道が見直しされている。恵庭市では市内を通るルートを検討しており、住民との接点は多くなると考えられる。 ・市民がまちづくりの一環として維持・管理できるようなシステムを作るため、自転車道を1つの庭としたガーデンルートにできないか。植栽や街路樹のレベルではなく、ガーデニングを全体で行うイメージ。 ・ただの道ではなく、まちづくりにつなげたいと考える。 ・札幌恵庭自転車道という本線だけではなく、枝線の自転車ルート整備の話も出ているが、ガーデンルートのような画期的な構想があれば、枝線整備の可能性も高まるのではないか。 ・シーニックバイウェイみたいに道を走的过程中に見たり感じたり出来ると良い。それには必ず物語がある。 ・関わりをもつことは時代を作るというか、歴史を作っていくことで、子供達にもそれが伝わる。 ・ストーリーがあるまちづくりが必要である。 ・ストーリーを作ることと、子供にも関わってもらうことが大切である。 ・子供にも学校教育の中で道のあり方、まちづくりについて考えてもらいたい。 ・ガーデニングによるみちづくりなど、子供たちに作業への参加を促すことが大切である。岩見沢駅の例のように、レンガに名前を残すなども参考になる。 ・自転車道路がつくられた後の活動などは、市の問題として考えていかななくてはならない。 ・「普段の恵庭」が見えるような、恵庭のまちづくりの情報発信の拠点となるようなみちづくりが必要である。
	今後に向けて ・盤尻ルートなど、議論で出されたルートは「今後に向けて」の提案の1つに載せるべきであると考える。 ・市民向けのイベントや講演会を開催し、先進地の事例紹介や、市民委員会の活動を発信するべきである。 ・講演会などを企画し、市民の情報・意見交換の場を設けながら、進めていくべきである。 ・設計段階において市民等がチェックする機会はあるのか？ ⇒（事務局）設計が進んだ段階など、市民に公開したいと考えている。 ・委員には、提言書を提出して終わりではなく、今後も維持管理に引き続き関わってもらいたい。 ・ルートができて、何年後かの評価を行う組織が必要である。検討委員会が3～5年後にその役割を担えたらと考える。 ・工事の段階でも市民が参画する仕掛けが必要。 ・市民との協働（実際に手を動かすこと）が大切である。